

2. 事業の目的と概要	
(1) 上位目標	カブール市およびナンガハル州の児童の学習環境の改善
(2) 事業の必要性(背景)	アフガニスタンの教育は 2002 年以降大きく改善されたが、未だ就学年齢児童の 3 割にあたる 330 万人の子どもが不就学である。不就学の要因として、教育省は、治安の悪さ、貧困に起因する児童労働、学校が遠いこと、教育の質の悪さをあげている。 学校の質、すなわち教育環境の課題としては以下の 3 点があげられている。第一は、校舎や教育施設の不足である。全国に 2014 年の時点で 14,599 校の公立一般学校があるが、校舎があるのは 51%の 7,300 校にすぎない。教育省の教育開発計画によると、学校の増加数の方が校舎の増加数より多いため、校舎がある学校の割合は減少傾向にある。校舎がある学校においても教室が不足しているため、多くの学校が 2 部制を採用している。教育省は、教室不足以外の学校施設の課題として、トイレ、飲み水施設、外壁の不足をあげている。 第二の課題である教員については 20 万人が不足しており、アフガン全体の 364 郡のうち 80 郡に女性教員はいない。また 58%は無資格教員であり、教員の現職研修が必要とされている。 第三の課題である教材と教授法については、教科書は 85%の児童が有しているものの、教科書以外の教材が不足している。図書室を有する学校は 2 割に過ぎず、図書室があっても、辞書や参考書が主な蔵書であり、小学生向けの図書や絵本はほとんどない。教育省は 2020 年まで毎年 300 校に図書室を設置する計画を持っている。 児童サービスを行っている図書館や児童館や学童保育施設のような子どもの学校外教育施設は皆無に近く、放課後や学校に行く前に子どもが文化的な活動を行ったり、有意義に余暇を過ごしたり、のびのびと遊ぶことができる施設が不足している。 アフガニスタン国別援助方針の重点分野には、「同国の経済成長を支える人づくり支援を継続するため、教育や保健分野も重視する」との記述があり、本事業は我が国の同国に対する援助方針に合致している。 対象地域選定の理由は、校舎建設活動については、カブール市の 271 校のうち 82 校で教室が不足し、少なくとも 15 万人の児童は野外での学習を強いられている。 図書室改善活動の対象地域については、学校図書室はカブール市の 65%にあたる 177 校、ナンガハル州の 51%にあたる 460 校に設置されているものの、中学生・高校生向けの図書が中心で、初等教育低学年向けの図書が圧倒的に不足し、教員は児童の読書習慣を育むための技能や知識を有していない。 子どもの学校外教育活動の対象地域であるジャララバード市には、少なくとも 3,000 人の不就学児童がおり、子どもが有意義に余暇を過ごすことができる学校外の教育施設はない。以上の様なことから、不就学児童に学習機会を与える必要性及び、子どもに読書や文化活動を行う機会を提供する必要性がある。 SDG との関連性については、本事業は SDG4（教育目標）に該当し、ターゲット 4.1 の初等教育の普遍化および質の改善、4.5 の女子、脆弱

	層に対する教育格差の改善、4.7のESD、多様性についての教育、防災教育の推進に寄与する。
(3) 事業内容	(ア) 校舎建設活動 教室不足の解消を目的に校舎建設を実施する。対象校は、カブール市ゾーン12にある Shams Tabrize 小学校である。同校は2015年に設立されたが、校舎が全く無く、トイレもない。コミュニティが作った飲料のための井戸があるので、井戸建設を支援する必要はない。当会がトイレを設置した後、この井戸から、電動ポンプで水を供給する。なお同校には電気は供給されている。同校は共学校で、12クラスの415名（うち女子が195名）は全員、カブール市教育局が借りた借家で勉強している。2部制を採用しており午前が1年生から3年生の6クラス、午後が4年生から6年生の6クラスが学習している。教員は21名のうち女性教員が19名である。 建設仕様は、RC構造（鉄筋コンクリート）で、教育省建設局の学校建設設計基準に従った1階建て6教室ならびに2室（教員室、図書室）の校舎および水洗トイレ5室1棟（うち1室は障害児用）を建設する。トイレも教育省建設局が指定している設計図に沿った仕様とする。校舎建設後、各教室に教員用机と椅子、児童用机と椅子、教材補完用の戸棚を供与、設置する。また校長・教員室に机・椅子を供与する。6教室の建設によって、現在の12クラスの415名の児童が全て安全で快適な教室で学習できるようになる。 対象校の選定理由は、①カブール市教育局の支援要請があったこと、②教室が不足していること、③安全が確保されていること、④住民組織（シューラ）の参加・協力が得られること、⑤貧困層の居住地域であること、である。一部の専門的な作業を除いて建設業者は使わず、当会が資材・労働力を直接調達し、建設現場にサイトエンジニアを配置し、住民の参加・協力のもと建設を行う。 校舎建設後、2017年12月に図書室を設置し、図書を供与するが、教員および図書館員研修は、翌年に実施する予定である。 カブールは寒冷地であるため3月末までは工事ができないため4月に建設作業を開始し、12月に完了し、竣工式を実施する予定であるが、12月中旬にカブール市の学校は試験が始まり、その後3月21日の新学期まで長期の休みに入ってしまうので、全教員を対象とする校舎およびトイレの維持管理ワークショップは、2018年4月上旬に実施する。その後、教員が全児童に対して校舎およびトイレの適切な使用法についての授業を行う。このワークショップは自己資金で実施する。 また2018年5月に防災教育についての教員研修を自己資金で実施する。この研修は、①防災教育の授業の実践についての研修（現行のJPF事業で開発する防災をテーマとする紙芝居2タイトルと本事業で開発する紙芝居1タイトルを活用）と、②学校防災計画（教員の役割分担と避難計画）の立案で構成する。この教員研修の後、教員が全ての小学生クラスを対象に防災教育の授業を行う。また避難訓練を実施し、当会はこのモニタリングを行う。 (イ) 図書室改善活動 児童の読書環境を整備し、読書を推進することが本活動の目的であ

る。本活動は、①図書室の整備・図書の供与、②図書活動についての教員研修、③移動図書館活動・モニタリング、④防災紙芝居の発行と配布、で構成される。2003 年にアフガニスタンで教育支援事業を開始して以来、当会は、図書室を整備して図書を供与し、図書室が有効に活用されるための教員および図書館員の研修、モニタリングによる指導、助言を行っており、このプロセスに 1 校当たり 3 年間をかけている。本事業は、ナンガハル州の 14 校、カブール市の 9 校の計 23 校の小学校を対象とし、受益者は 33,288 名の児童、927 名の教員である。対象校別の支援活動については、図書館改善活動対象校リストを参照。

① 学校図書室の設置

対象校 23 校のうち、10 校を対象に図書室用備品（本棚、机、椅子）と図書を供与し、学校図書室を設置する（他の 13 校は 2016 年に設置済）。図書は、当会が現地発行してきた絵本および紙芝居、他の団体が発行したユース向けの本、日本で発行された質の高い絵本に日本の市民の協力によって現地の公用語の訳文を貼った本をアフガンに輸送した図書の計 830 冊を 1 校あたりに供与する。「学校図書室設置のために供与する図書と備品のリスト」を参照。

② 図書活動についての教員研修

読書推進を目的とする図書活動についての「一般教員研修」を 17 校を対象に、「図書室担当教員研修」を 22 校を対象に実施する。講師は、両研修ともトレーナー研修を受けた教育局の職員及び当会職員が務める。「一般教員研修」は、授業を通じた図書室の有効な活用法についての知識と技能を向上させることを目的とし、各校から 30～35 名の教員を対象に 4 日間実施する。「図書室担当教員研修」は、参加者が図書室の運営・サービス（貸出、補修等）の方法について習得することを目的とし、3 日間行う。この研修には「一般教員研修」に参加した教員のうち、1 校あたり校長、副校長、図書室担当教員ら計 3 名が参加する。

③ モニタリングおよび移動図書館活動

移動図書館活動は、1 クラスから 3 クラスの児童約 50 名から 100 名を対象に、30 分程度、読み聞かせを行い、読書への動機付けを高めるもので、図書室を設置後、長期休みを除いて原則として 1 カ月に 1 度行う。移動図書館活動はモニタリングも兼ね、モニタリングシートに沿って、児童および教員による図書貸出数についてのデータ収集を行う。移動図書館活動には、カウンターパートであるナンガハル州教育局の指導主事が同行し、授業での図書の有効な活用法について教員に随時指導、助言を行う。女子校は女性の指導主事が担当し、男子校は男性の指導主事が担当する。

④ 防災についての紙芝居の発行と配布

防災教育のための紙芝居を 1 タイトル、ダリ語版、パシュトゥン語版各 200 部、計 400 部発行し、学校図書室支援対象校と過去に当会が学校図書室設立を支援してきた学校の計 98 校に配布する。

(ウ) 子どもの学校外教育活動

子どもの学校外教育活動は、ジャララバード市内の児童に対して、学校外での教育機会を提供することを目的とし、①図書活動と文化活動の実施、②特別行事の実施、③学校に行けなかった子どものための特別教室で構成する。これらの活動は、当会ジャララバード事務所の 1 階部分

	を活用して運営する「子ども図書館」において実施する。図書館は祝祭日を除く週 5 日、午前のみひと月当たり約 20 日間開館する。利用者数は一日当たり 120 名、年間で延べ 28,800 名 (120 名×20 日×12 か月) を見込んでいる。120 名の 1 日あたりの利用児童のうち約 60 人は学校に通えない子どもたちである。なお、ジャララバード市内の学校は 2 部制あるいは 3 部制を採用しているため、午後学校に通っている子どもが、午前子ども図書館を利用することができる。利用者は無料の登録制で、5 歳から 13 歳までの児童であれば、誰でも利用できる。 図書活動と文化活動とは、図書の閲覧、貸し出し、読み聞かせなどの図書活動、絵画教室、工作教室、縫製教室、タラナ (アフガニスタンの詩) の朗詠教室等である。図書館には 3,265 冊の常設図書があり、子どもたちは自由に本を読むことができる。ジャララバード市内には公共図書館にも児童スペースがあるが、「子ども図書館」から徒歩 60 分も離れている。したがって、自由に訪れて本に触れられる機会を児童に提供することは、非常に重要である。 特別行事は、子どもの日や独立記念日、世界女性の日、母の日などの記念日、誕生日を祝うもので、年に 9 回実施する。子どもたちが詩の朗誦や、読み聞かせなど、文化活動の成果を発表する。こうした活動により、子どものコミュニケーションスキル、意見表明スキルの向上をはかる。母の日など年に 2 回の行事には母親を招く。これは子どもの成長を母親が確認し、子ども図書館の活動について母親から意見をもらうことを目的とするが、母親同士が交流できるという意義もある。また年に 2 回の防災教育 (避難訓練、防災紙芝居) を特別行事に取り入れる。 学校に行けなかった子どもの特別教室は、貧困あるいは児童労働のため小学校に入学できなかった 8 歳から 12 歳の子ども 35 名を対象にし、小学校 1 学年のカリキュラムを 9 ヶ月間実施するが、ナンガハル州では学校が 9 月に始まり 5 月に終わるので、学校暦に合わせて 9 月を新学期とする。教員として元公立小学校の教員を 3 名雇用する。これら 3 名の教員は、交代で授業を行い、図書館・文化活動の指導・運営も担う。プログラム修了後、公立小学校の 2 学年に編入できるよう親や教育局に働きかける。本活動が正規カリキュラムに沿ったものであり、公立学校と同じ教科書を用いており、必要な年間授業時間数を満たしていることがナンガハル州教育局から認証されている。
(4) 持続発展性	(ア) 校舎建設活動については、建設する校舎、供与する備品はカブール市教育局に譲渡、登録され、維持管理は学校と市教育局が責任を負う。この旨を記載した登録証を市教育局は発行するほか、施設の維持管理研修を教員を対象に行う。 (イ) 図書室改善活動については、図書室を設置した後は、学校は図書室担当教員を手当付きで配置することは教育省によって制度化されていることから、人材面の持続性は保障されている。したがって、支援対象校における図書室の維持管理、児童サービスは継続して行われることが見込まれる。しかしながら、対象校以外において児童図書を配架した学校図書室の設置を全国の州に普及し、スケール・アップを図るためには、教育省に対するアドボカシー、働きかけを行っていく。 (ウ) 子どもの学校外教育活動については、ナンガハル州情報文化局が運営する公共図書館において、図書・文化活動といった子どもの学校外

	教育活動が取り入れられることが期待される。不就学児童のための特別教室については、プログラムを修了した児童は公立小学校に編入できるよう親や教育局に働きかける。		
(5) 期待される成果と成果を測る指標	活動と指標の確認方法	事業前の数値	事業後の目標値
	(ア) 校舎建設活動 2018 年 3 月下旬の新学期開始以降、学校長からデータを入手。	教室不足のため、12 クラス、415 名の児童が教室外(民家)での学習を強いられている。	12 クラス、415 名の児童が安全で快適な教室で学習できている。
	(イ) 学校図書室改善活動 原則ひと月に 1 度行うモニタリングによってデータを収集。	対象 23 校で子どもの読書習慣が普及していない。	対象 23 校において、1 校あたり 300 冊/月以上の図書が児童に貸し出されている。
	(ウ) 子どもの学校外教育活動 「子ども図書館」の活動実績データおよび活動記録。	ジャララバード市の子どもが図書・文化活動などの学校外教育に参加する機会が限られている。不就学児童が 3,000 名以上いる。	①1 日当たり 120 人の児童が学校外教育活動に参加している、②不就学児童 35 名が教育の機会を得ている。